



浦添城の前の碑

8/23 (日) 中世の浦添に触れ、思いをはせる

身近にある史跡を通して郷土の歴史と文化に親しんでもらおうと、「浦添グスク・ようどれ探検」が行われ、市内外から148名が参加しました。

「うらおそい歴史ガイド友の会」の説明を受けながら、舜天・英祖・察度の3王統の居城として220年にわたり栄えた「浦添グスク」と、尚寧王・英祖王のお墓である「浦添ようどれ」を見学しました。参加者からは「説明が分かりやすくおもしろかった」「新学期になったら友達に今日の探検のことを教えてあげたい」と、浦添の歴史・文化を満喫した様子でした。



8/21 (金) 充実した指導に大満足の生徒たち

軟式野球チームに所属する中学生を対象とした「少年野球教室」が浦添市民球場で開催され、市内6中学校の野球部から約90名が参加しました。本市で春季キャンプを行っている東京ヤクルトスワローズの元選手3人が指導に当たり、生徒たちはストレッチ、投球方法などの技術的なことや、選手としての心構えを学びました。「分かりやすく、しかも一人ひとりに教えてくれたのでとてもよかった」「習ったことを普段の練習にも取り入れて、いろんな大会で優勝できるように頑張ります」と、生徒からは教室に参加した喜びの声がありました。

▶右は近所に住む親戚の又吉ツルさん(97歳)



県内男性最高齢は浦添市在住の仲西貞次さん!

浦添市牧港在住の仲西貞次さんは、明治34年生まれの107歳で、県内の男性最高齢者です。以前は軍の水道局に勤め、退職後は畑仕事に勢を出した働き者だったとのこと。現在は一人暮らしですが、同じ建物内に住む親戚の方が毎日様子を見に訪れます。三枚肉が大好きで、食事もお自分で取ります。健康のために腹七部を心がけていて、運動は軽いストレッチなどを行います。週3回介護ヘルパーを利用していますが、トイレも介助なしに行えます。福祉課職員によると「この高齢にも関わらず、介護施設に入所せずに生活する仲西さんは、すばらしい」とのことです。



9/9 (水) 宮城ていーだっ子がスポーツ界で大活躍!

宮城小学校6年生の高江洲大輝君が第25回全国小学生陸上競技交流大会の走り幅跳びで優勝しました。また、同校の少年野球チームが熊本県で開催された第11回大阿蘇旗学童野球大会で準優勝し、これら偉業達成を報告するために市長を訪問しました。

「全国大会に初めて出場して、優勝したことがうれしい。これからも走り幅跳びを続けて、大きな記録を出していきたい」と、高江洲君が今後の豊富を述べ、野球チームキャプテンの宇良裕輝君は「準優勝できてとてもうれしい。来年は後輩たちに優勝してほしい」と、喜びを語りました。市長は「今回の皆さんの功績は、日頃から学業に、スポーツにと頑張っている成果です。これからも練習に励んでください」と選手達を激励しました。



9/7 (月) 市民の優先雇用をお願いします

経済不況により雇用情勢が厳しい中、本市は地域活性化・経済対策及び緊急雇用対策を実施しています。市内在住の方が一人でも多く就職の機会を得られるようにと、市長が「新規学卒者及び市内在住者の優先雇用」の要請のため、市内の企業（沖縄コカ・コーラボトリング株式会社、沖縄マツダ販売株式会社、琉球セメント株式会社の3社）を訪問しました。

訪問には、那覇公共職業安定所所長、大平特別支援学校校長らが同行し、新規学卒者、若者、障がい者、中高年、一人親世帯等の雇用を配慮する旨の要請書を手渡しました。



8/19 (水) 世界のウラシム七ツを学ぶ

市立図書館沖縄学研究室と「浦添市移民出稼移住調査ボランティアサークル」の主催により、南米移住者子弟研修生の銘苅タルシオさんとの交流会が開催されました。この交流会は、市民と研修生との交流を通して、ブラジル在住の県出身者、浦添出身者の移民出稼の様子を学び、移民史編集事業に対する理解と関心を深めることを目的に開催されたものです。

参加者からは「現在のブラジルの状況や、沖縄への想いを聞くことができ、ブラジルと浦添のつながりを実感することができた」と、喜びの声がありました。